

6月定例  
議会報告

新政クラブ・政友会・野洲新風クラブ・公明党が

# 橋下慰安婦発言の謝罪と撤回決議に反対

理由も言わないで反対では議員の役割果たせず

6月定例市議会は26日閉会しました。共産党市議団は、「橋下徹大阪市長(日本維新の会共同代表)の旧日本軍の慰安婦発言に対し、謝罪と撤回を求める決議」など3件を提案しました。いずれも公明党・政友会・新政クラブ・野洲新風クラブの議員は反対し不採択となりました。

橋下市長の発言は、女性のみならず、全ての国民の人格と人権、尊厳を否定するものです。とりわけ、これまで野洲市は「人権尊重」を重視してきたまちです。その野洲市議会が、「橋下発言の謝罪と撤回を求める決議」に一言の理由も明らかにせず、「黙って反対」したことに、市民から「考えられない!」と強い批判がでています。



共産党市議団が提案した決議案です

橋下徹大阪市長(日本維新の会共同代表)は去る5月13日、「旧日本軍による『従軍慰安婦』は必要だった」、沖縄海兵隊司令官に海兵隊員のエネルギーを発散させるために「風俗業の活用を提案した」などと発言した。

一連の発言に対して、アメリカには発言の撤回と謝罪を行ったが、「従軍慰安婦発言」については撤回や謝罪はない。

女性を性の道具として見る今回の一連の発言は、女性だけではなく、すべての国民の人格や人権、そして尊厳を深く傷つけるものである。また、これらの発言が、市民の人権を守り抜くべき公人によるものであり断じて許されない。

よって、野洲市議会は、橋下徹大阪市長に対し、抗議すると同時に、ただちに謝罪し発言を撤回することを強く求める。以上、決議する。

## 共産党市議団が提案した意見書・決議

○ = 賛成      = 反対

	太田健一	野並享子	小菅六雄	矢野隆行	梶山幾世	丸山敬二	西本俊吉	三和郁子	鈴木市朗	井狩辰也	市木一郎	坂口哲哉	立入三千男	高橋繁夫	奥村治男	中島一雄	田中孝嗣	内田聡史	田中良隆	河野司	
決議・意見書																					
橋下市長(維新の会共同代表)の慰安婦発言に対し、謝罪と撤回を求める決議																					
年金削減に反対する意見書(今年10月から年金2・5%引き下げに反対)														○							
日本国憲法第96条に反対する意見書(憲法改正発議要件を下げることに反対)																					

やす民報

日本共産党野洲市委員会  
2013年6月30日 256

暮らしのご相談を  
お寄せください

小菅六雄 比江668-3 (電話・FAX)589-4971  
野並享子 北野1-7-10 (電話・FAX)587-0985  
太田健一 近江富士2-11-25 (電話・FAX)588-3169

市議団ホームページ  
<http://www.yasusigi.net/>

新しい視点  
展望しめす

しん 赤旗 ぶん

日刊紙●月3,400円  
日曜版●月 800円

お申し込みは左記の議員までご連絡ください

# 東京都議選

# 日本共産党、倍増の17議席

参院選の前哨戦として各党が総力をあげ、多党大激戦となった東京都議会議員選挙(定数127)は23日、投開票され、日本共産党は、前回(2009年)の8人を大きく上回る17人が当選して都議会第3党に躍進、前回失った議案提出権を回復しました。投票率は、前回は約11ポイント下回る43.50%でした。



■都議選の党派別当選者数

	計	候補者数	改選時	前回当選
共産党	17	42	8	8
自民党	59	59	39	38
公明党	23	23	23	23
民主党	15	44	43	54
みんな	7	20	1	—
ネット	3	5	2	2
維新	2	34	3	—
その他	0	9	0	0
無所属	1	17	6	2
計	127	253	125	127

前回、第1党となった民主党は築地市場移転や都立小児病院などの公約違反に厳しい批判を浴び、15人の当選にとどまり都議会第4党に転落。自民党は59人で都議会第1党となり、公明党は前回と同じ23人でした。

「第三極」をめざした日本維新の会とみんなの党は、橋下徹共同代表の「慰安婦」暴言をきっかけに選挙協力が崩壊し、支持率も急落。維新は34人立候補しましたが現有3議席を下回る2人とどまり、みんなは20人擁立し7人の当選でした。生活者ネットは3人でした。

日本共産党は、現有議席の8選挙区すべてを確保。大激戦だった江東区(定数4)で、畔上三和子氏が、足立区(同6)で大島芳江氏がそれぞれ再選を果たし、杉並区(同6)で吉田信夫団長、新宿区(同4)で大山とも子幹事長、八王子市(同5)で清水秀子政調委員長、大田区(同8)で、可知佳代子氏が議席を確保。現職と交代した世田谷区(同8)で

は里吉ゆみ氏が、板橋区(同5)では徳留道信氏が当選し、党の議席を守りました。

前回惜敗した選挙区では、定数2の文京区で小竹紘子氏が議席を回復したほか、中野区(定数4)で植木紘二氏、北区(同4)で曽根肇氏、練馬区(同6)で松村友昭氏、江戸川区(同5)で河野百合恵氏がそれぞれ返り咲きました。さらに豊島区(定数3)で25歳の米倉春奈氏が、品川区(同4)で31歳の白石民男氏がそろって初議席、葛飾区(同4)では和泉尚美氏、北多摩1区(同3)では尾崎あや子氏が初当選しました。

国政では「自共対決」、都政では「オール与党」対日本共産党の対決構図が鮮明になるなか、日本共産党は、42全選挙区に候補者を擁立し、(1)暮らしと景気(2)原発ゼロ(3)憲法を生かすの三つのよびかけと攻勢的な論戦を展開しました。

しんぶん「赤旗」6月25日付